

会陰部副陰囊の1例

大阪大学医学部泌尿器科学教室（主任：園田孝夫教授）

永野俊介
高羽津
生駒文彦

ACCESSORY SCROTUM: REPORT OF A CASE

Shunsuke NAGANO, Minato TAKAHA and Fumihiko Ikoma

*From the Department of Urology, Osaka University Medical School**(Director: Prof. T. Sonoda, M. D.)*

A 3-month-old boy was referred to Osaka University Hospital on November 10, 1970 because of an anomaly of external genitalia.

The abnormality consisted of semipedunculated outpouching skin which located at the perineum, and it seemed to be the scrotum because of its serrations. This structure was circumscribed by the raphe which was normal in position at the penis and the normal anterior scrotum.

Both testicles had descended into the normal anterior scrotum.

No other anomalies could be found in further examinations including excretory urography and retrograde urethrocytography.

On November 18, 1970, operation was performed and this structure was removed. The histologic picture and architecture of this specimen was that of scrotum.

Daut and Daut (1949) reported the first case of posteriorly located accessory scrotum. This case is the second reported case of accessory scrotum.

外陰部は奇形発生頻度の比較的高い部位であり、陰囊の奇形もしばしば認められる。しかし、陰囊奇形は通常他の尿路生殖器奇形、とくに尿道下裂、半陰陽、膀胱外反症などの疾患に付随して発生するものであり、独立して存在することは珍しいとされている。

これまで報告されている陰囊奇形のうちでは、陰茎前位陰囊の報告が最も多くみられ、異所性陰囊の報告も数例みられるようである。しかし、過剰陰囊、あるいは副陰囊とよばれる報告例は、これまで Daut and Daut (1949) の報告1例をみるにすぎない。われわれは最近世界で第2例目と思われる副陰囊の1例を経験したのでここに報告する。

症 例

患者：3カ月、男子。

初診：1970年11月10日

主訴：会陰部陰囊様腫瘤形成。

家族歴および既往歴：妊娠期間中および出産にとくに異常を認めない。

現病歴：生下時より会陰部、正常陰囊の肛門側に陰囊と同じ外観を呈する腫瘤形成を認める。排尿、排便には異常を認めない。

現症：体格、栄養は良好で、発育も正常である。胸部、腹部に異常所見は認められない。外陰部では正常の陰茎および正常陰囊を認め、陰囊内容はおのおのその側の陰囊内に存在するが、正常陰囊に接して肛門側に直径約3cmの先端部に正常陰囊と同様の襞を有する腫瘤が認められる (Fig. 1)。この皮膚は正常陰囊

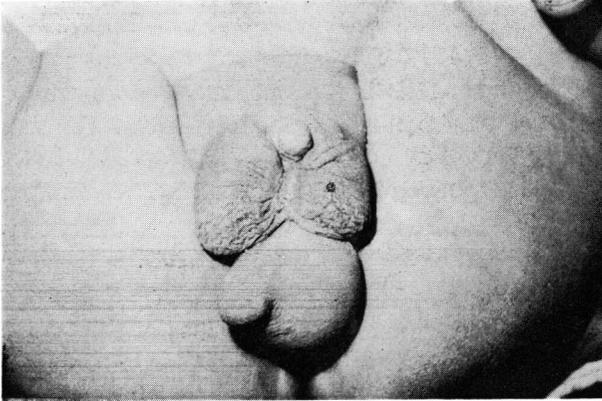


Fig. 1 外陰部所見

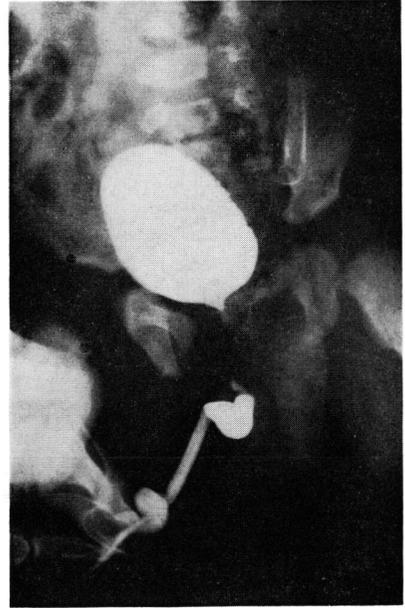


Fig. 2 尿道膀胱レ線像

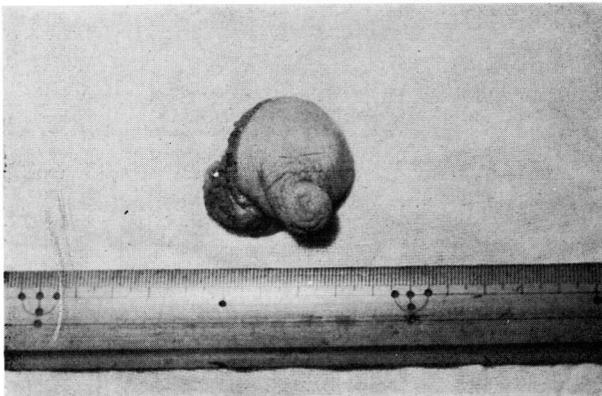


Fig. 3 摘出標本

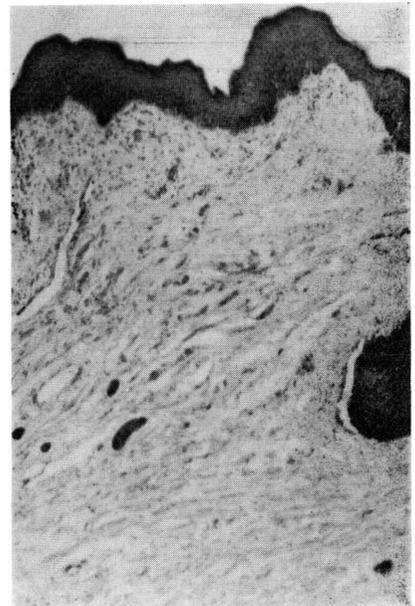


Fig. 4 病理組織所見

壁と同様の襞の動きが認められた。縫線は陰茎および正常陰嚢部では正中線上を走るが、正常陰嚢の肛門側で2本に分離し、腫瘤をとりまくように走り、会陰部にてふたたび合流している。四肢その他には異常は認められない。

検査成績：血圧；100/60 mmHg。尿所見；黄色透明，反応酸性，糖，蛋白陰性，尿沈渣に異常を認めない。一般検血所見；RBC $460 \times 10^4/\text{mm}^3$ ，WBC 6,200/ mm^3 ，Ht 42%。血液化学所見；BUN 12 mg/dl，Na 141 mEq/L，K 4.2 mEq/L，Cl 98 mEq/L，total protein 6.9 g/dl。

尿路レ線所見：腎・膀胱部単純レ線像では、骨格系に異常は認められず、異常陰影も認めない。排泄性腎盂レ線像では、両側ともに排泄は良好で、腎、尿管の奇形は認められない。尿道膀胱レ線像も正常である (Fig. 2)。

注腸レ線所見：注腸レ線像は正常で、腸管と腫瘤の関係は認められなかった。

以上の所見より会陰部副陰嚢と診断し、1970年11月18日手術を施行した。

手術所見：挿管麻酔下にて、副陰嚢をとりまく縫線にそって皮切を加え、皮下組織の剥離をおこなった。皮下組織は脂肪組織よりなり、明らかな被膜の存在は認められなかった。脂肪組織にさらに剥離をすすめたところ、遠位尿道の壁と一部線維性癒着が認められたので、これを鋭的に切断し、腫瘤を摘出した。創は2層に縫合し、経尿道的に膀胱内留置カテーテルを挿入、手術を終了した。

摘出標本：標本は陰嚢の外観を呈する皮膚をつけた、大きさ $4 \times 4 \times 3 \text{ cm}$ 、重さ 20 g の腫瘤であって、皮下組織は脂肪よりなっている (Fig. 3)。組織学的には重層扁平上皮、皮下組織、および脂肪組織よりなり、真皮内には皮脂腺、汗腺などが認められる。また、皮下組織内には間質線維、平滑筋線維が多数認められ、Tunica dartos と考えられる (Fig. 4)。組織学的には正常陰嚢皮膚と診断された。

術後経過：患者の術後経過は順調で、術後21日目に全治退院した。

考 按

陰嚢の発生は Lowsley and Kirwin (1944) によればつぎのごとくである。

「胎芽 21 mm のころ、生殖結節の基底部に陰嚢隆起が一对形成される。さらに胎芽が 38 mm から 45 mm になる間に生殖結節は延長し、尿生殖洞開口部が肛門より前方へと移動するに伴い、肛門側より前方へ向かって正中線上に陰茎に至る縫線が形成される。こ

のさい、陰嚢隆起は尾側へ向かって發育し、左右の隆起の癒合により陰嚢縫線が形成され、正常の位置に陰嚢を形成する。」

これまでに報告されている陰嚢奇形、すなわち陰茎前位陰嚢や異所性陰嚢の発生原因としては、生殖結節と陰嚢隆起との發育のアンバランス、およびそれに伴う陰嚢隆起の癒合不全がその主たるものであると考えられている。本症の発生原因もこれに類似したものと考えられるが、われわれの症例と同様の副陰嚢報告例は、Daut and Daut (1949) の1例にすぎず、発生原因に関する考按はきわめて困難である。かれらの症例では、縫線に関する記載が欠如しているが、われわれの経験した症例では、副陰嚢の周囲を縫線がとりまいていること、および Daut and Daut の症例においては、Hypospadias glandis の合併がみられたことを考慮に入れば、癒合不全が本症の発生原因として大きな因子となっているものと考えられる。

本症のこれまでの唯一の報告例である Daut and Daut (1949) の症例は、新生児で、正常陰嚢の肛門側に $1 \times 2 \times 7 \text{ cm}$ の陰嚢様構造物を認めたものである。また、Hypospadias glandis を合併しており、生後2ヶ月でこの陰嚢様構造物の摘出術をうけている。組織学的所見は、われわれの症例と同様所見を示し、皮下組織内に dartos と考えられる組織を見いだしている。

本症を副陰嚢と称するか、過剰陰嚢と称するかは、たいした問題ではないと考えるが、かれらはその症例を“accessory scrotum, posteriorly located”として報告しており、われわれもかれらの報告に従い、会陰部副陰嚢とよぶことにした。なお、この構造物が陰嚢であるか、他の脂肪腫などの腫瘤であるかを鑑別するには明らかに陰嚢襞を示す皮膚を有することと、組織学的に dartos を認めることが重要であると考えられる。

結 語

1. 3ヶ月男子にみられた会陰部副陰嚢の1例を報告した。本症例は世界第2例目の報告例である。

2. 本症の発生原因に関して、若干の文献的考察を加えた。

引 用 文 献

- 1) Daut, W. W. and Daut, R. V.: J. Iowa State Med. Soc., 39: 194, 1949.
- 2) Lowsley, O. S. and Kirwin, T. J.: Clinical Urology, 2nd edit., p. 360, Williams and Wilkins, Baltimore, 1944.

(1971年9月11日受付)